

第2回新しい学校を考える会

資料1

第一回安平町早来中学校の再建に関する合同学校運営協議会 検討部会 要旨

開催日時：令和元年6月27日 18:30~21:00

<会長・副会長の選任>

会長：三本さん（所属：早来小学校）

副会長：久米さん（所属：早来小学校）、原山さん（所属：早来中学校）

<事業計画について 事務局より説明>

- 早来中学校の単独再建
- 早来小学校との施設一体型校舎による再建－現早来小学校の校舎に増築し、整備する－
- 早来小学校との施設一体型校舎による再建－購入敷地に施設一体型の校舎を整備する－

<質疑応答>

委員. 早来中学校の再建が一番であるので、早来中学校の再建のみを行うとすれば、義務教育学校とするのか、小中一貫教育とするのかなどの検討課題がなく進められるのではないか。

事務局. 築43年の早来小学校の改築または長寿命化改修の費用がいずれ掛かる。復興まちづくり計画としても、将来の町の負担を少なくするためには、公共施設マネジメントを検討していかなければならない。

委員. 工事予算的に小中一体型校舎の改築が良いということで説明されたが相当な金額になると思う。総合計画に数字が反映されていなく、町の財政への影響が分からない。

事務局. 総合計画に反映するためにも、校舎建設の計画をしないといけない。建設の計画ができた段階で、財政計画とすり合わせていく必要がある。早来中学校の議論だけではなく、町の財政を検討するためにも、まずは計画内容を決めなければならない。

委員. 小中一体型校舎は、義務教育学校になるのか。

事務局. 義務教育学校とすることは未定である。ただし小中一体型校舎が小中一貫教育を行うには効果的であるとされている。

委員. 小中一体化校舎は、義務教育学校前提のように聞こえてしまう。義務教育学校が本当に良いのか。（遠浅小、安平小と）教育格差ができそうだ。子ども、保護者、教職員に対しても不公平さがあるのではないか。

事務局. 義務教育学校については、財政面を含めて検討しなければならないので、校舎建設の議論とは別である。

委員．西側校舎の案は、南側に山がある。工事は可能なのか。

事務局．技術的には建設できるが、校庭の南側に校舎ができるのはよくないなど計画的には課題がある。また建設中に校庭の制約を受ける可能性が高い。

計画アドバイザー．西側に校舎を建てる場合、敷地の広さに対して校舎が端に固まり、また丘の造成工事費が更に掛かる。また小川や湿地がある東側に校舎を建てることは、その環境を活かすことや、造成工事費を考慮すると考えにくい。今回の敷地条件では中央に校舎を建てることの方がよい。小学校の建て替える場合も敷地の中央に建てることの方がよさそうである。

計画アドバイザー．今回の早来中学校の再建事業を機会として、小学校と中学校の改築を同時に行うことで良好な教育環境を整備するチャンスと捉えられる。

委員．義務教育学校はいつ決まるのか。

事務局．秋頃になる。

委員．小中一体型校舎にすると、敷地の中央に建物が配置され、絵のような形で建設されるのか。

校庭側と湿地側に伸びた横長の校舎の方が敷地は有効に使えるのではないかな。

事務局．図の配置案はあくまでも例示である。今後、幾つかの案を比較検討したい。

委員．中央に校舎を配置する案は工事中に校庭が利用できるのか。

事務局．現状の早来小学校の校庭は使える。解体工事中に使えなくなることはない。

委員．親の立場で言うと、仮設校舎で過ごす小6の子どもたちにも1年間は何とか新校舎で過ごせるようにしてあげたい。これ以上遅れないようにしてほしい。小中学校をまずは建てて、義務教育学校の是非については後でよいのではないかな。

計画アドバイザー．校舎の位置は中央が最適と考える。そこに建つ建物形状や配置は次のステップで考えていく。豊かな学校となるように、その議論に時間を割いた方がよい。義務教育学校とすることは別として、施設計画としては小中一貫教育に取り組みやすい環境を課題として受け止めたい。

事務局．次回の新しい学校を考える会では、建物を敷地中央に配置し、小中一体型校舎とする内容で意見交換をすることとしてよろしいか。具体的にゾーニング（地域開放はどのあたりの配置が良いか、体育館はどのあたりの配置が良いかなど）の検討を行いたい。

事務局．新しい学校を考える会には常任が7名いるが、基本的には誰でも参加しても良い会である。新しい学校を考える会でも議論するので、可能であれば参加してもらいたい。

会長．早来中学校を早期再建することを目的とし、早来中学校・小学校を一体型校舎で改築する検討を進めていくことでよいか。

各委員．異議なし。（中学校2校の統合を理由として、一部の委員に反対意見あり）